

熊本総合病院が 担う役割について

令和5年11月10日

独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) 熊本総合病院

1 現状と課題

◆ 地域医療機能推進機構 (JCHO) の理念、使命

【理念】

我ら全国ネットのJCHOは、地域の住民、行政、関係機関と連携し、地域医療の改革を進め、安心して暮らせる地域づくりに貢献します

【使命】

1. 地域医療、地域包括ケアの要として、超高齢社会における地域住民の多様なニーズに応え、地域住民の生活を支えます。
2. 地域医療の課題の解決・情報発信を通じた全国的な地域医療・介護の向上を図ります。
3. 地域医療・地域包括ケアの要となる人材を育成し、地域住民への情報発信を強化します。
4. 独立行政法人として、社会的な説明責任を果たしつつ、透明性が高く、財政的に自立した運営を行います。

1 現状と課題

◆ 当院の理念、基本方針、私たちの信念

【理念】

患者様に満足される最新の医療を情熱を持って実践する

【基本方針】

1. 質の高い最新の医療を提供します
2. 自分自身がかかりたい医療を行います
3. 治療と癒しに情熱を燃やします

【私たちの信念】

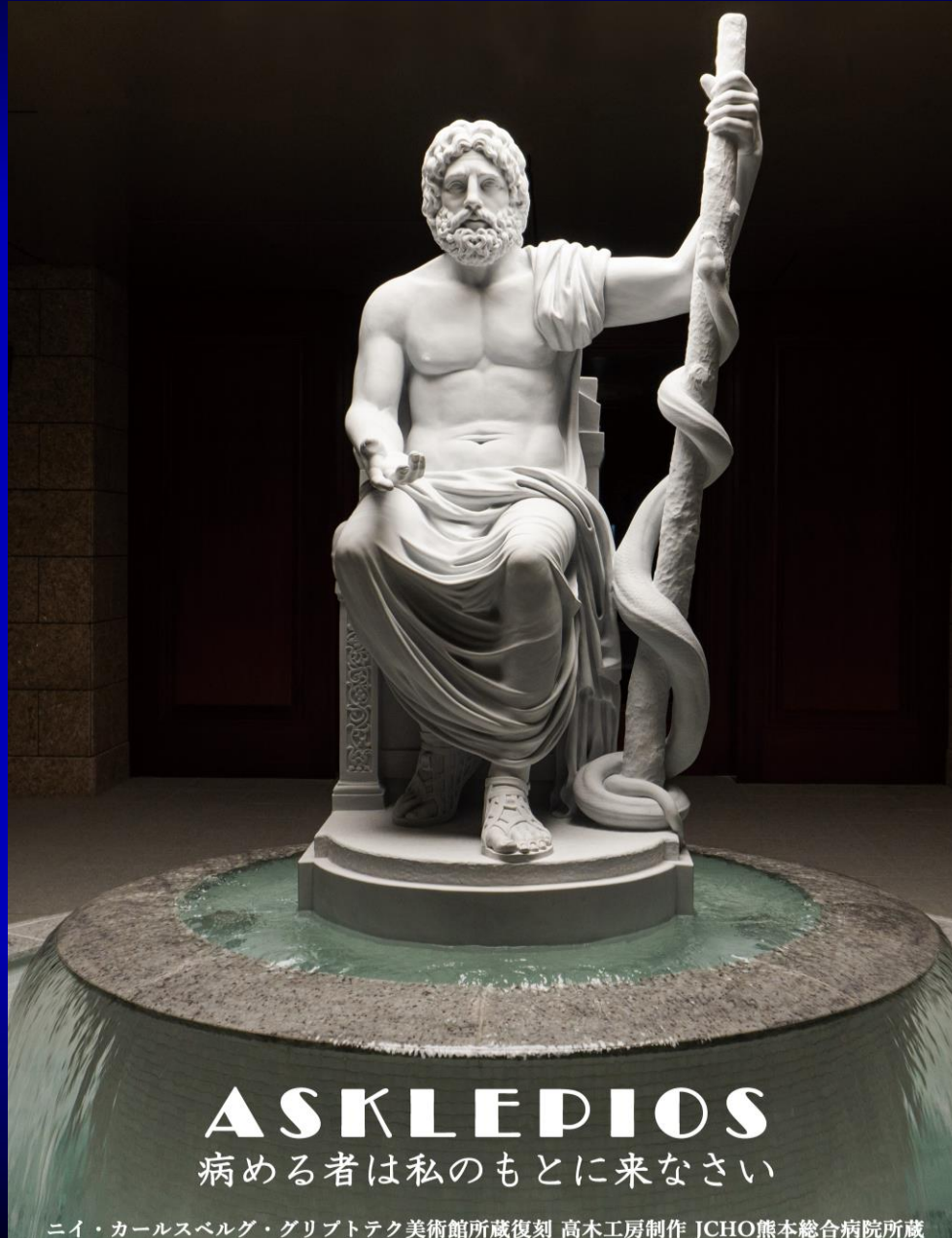
医療とともに、公に一肌脱ぎます

当院は、信念を遂行し八代地域にお役に立てるよう
「北館」竣工し「本館」と一体となった**施設・設備整備**



その信念を忘れないように**医療の神様**を「北館 1F」に設置

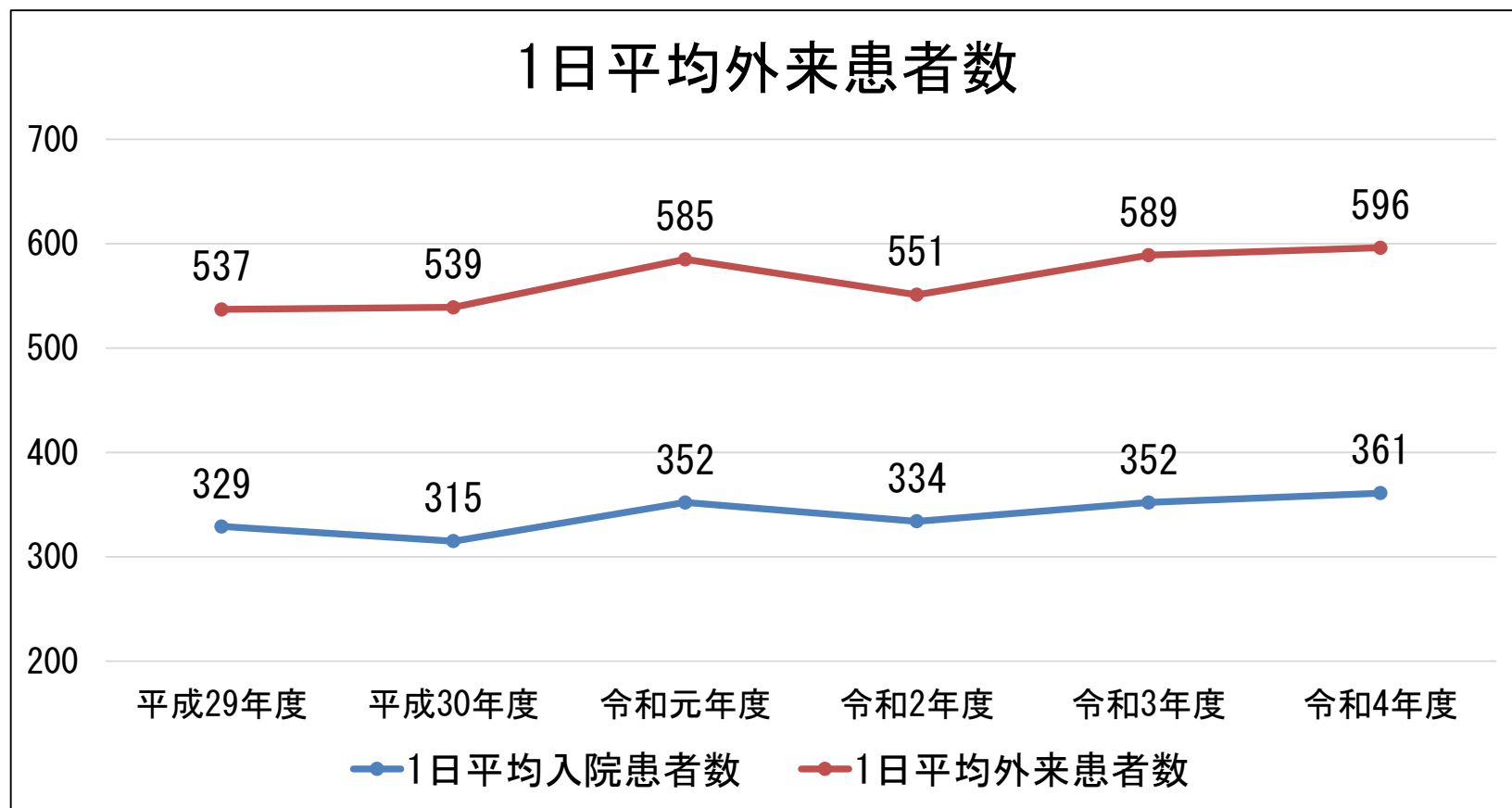
医療の神様



アスクレピオス

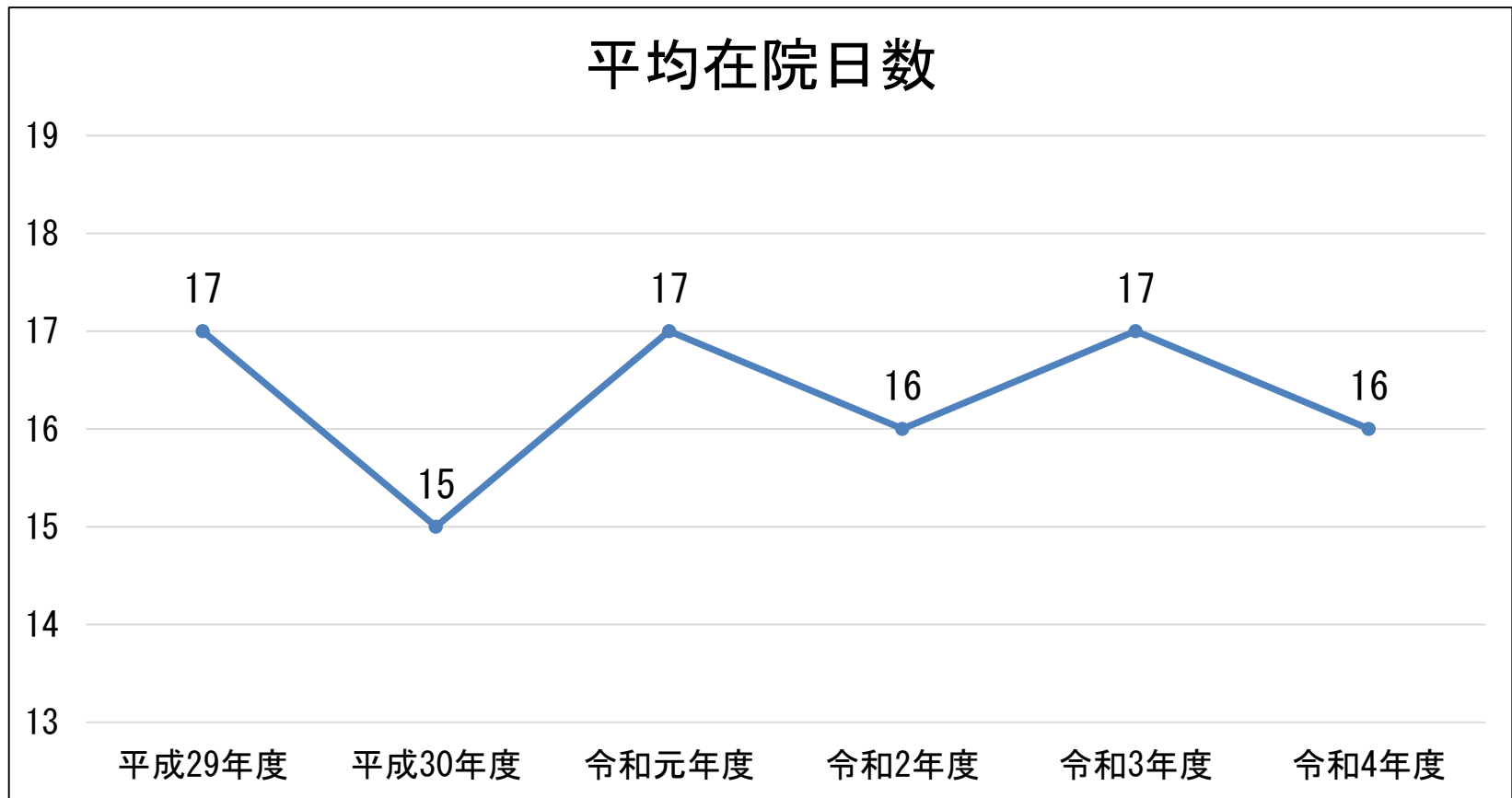
1 現状と課題

◆ 診療実績



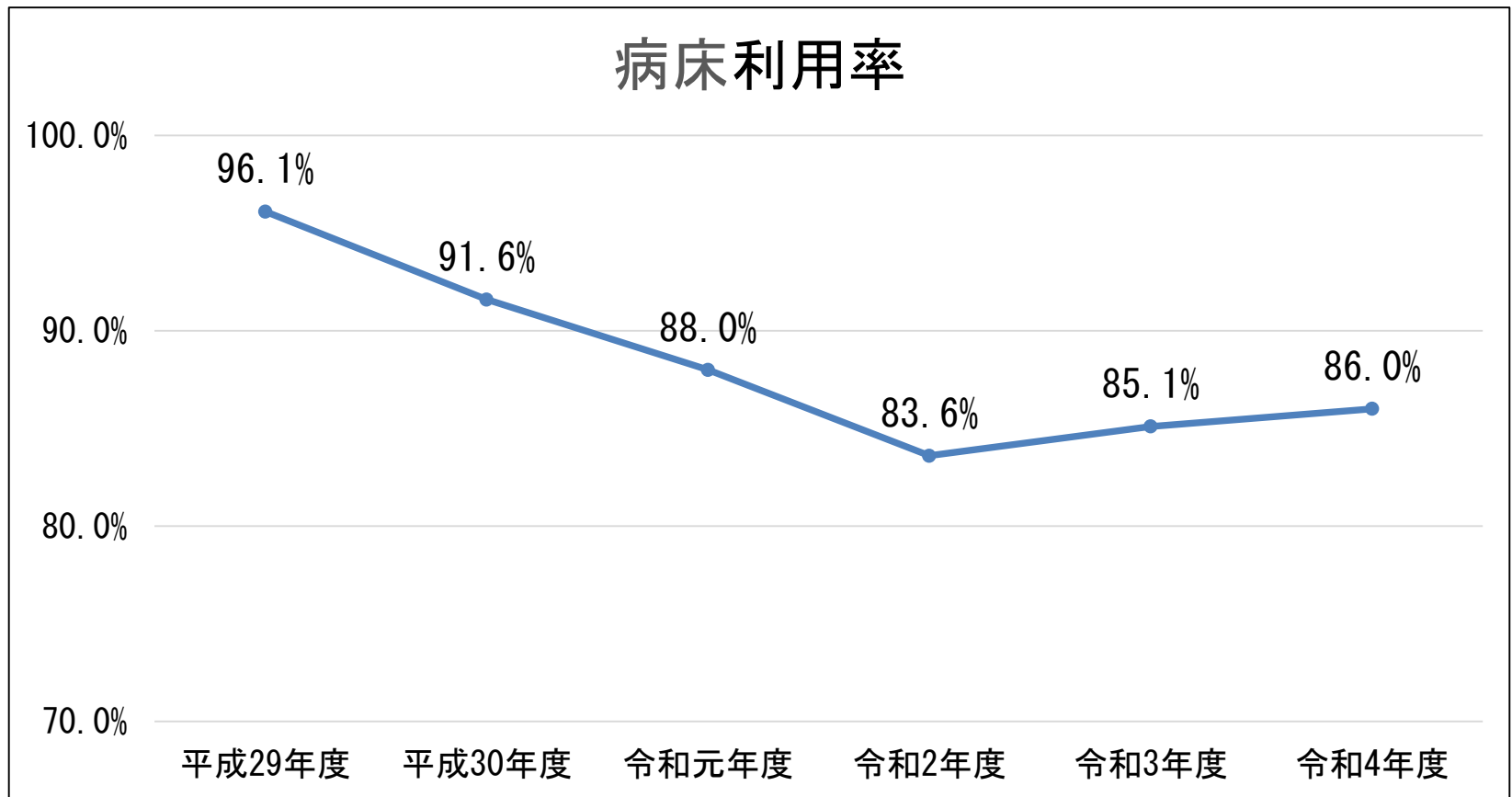
1 現状と課題

◆ 診療実績



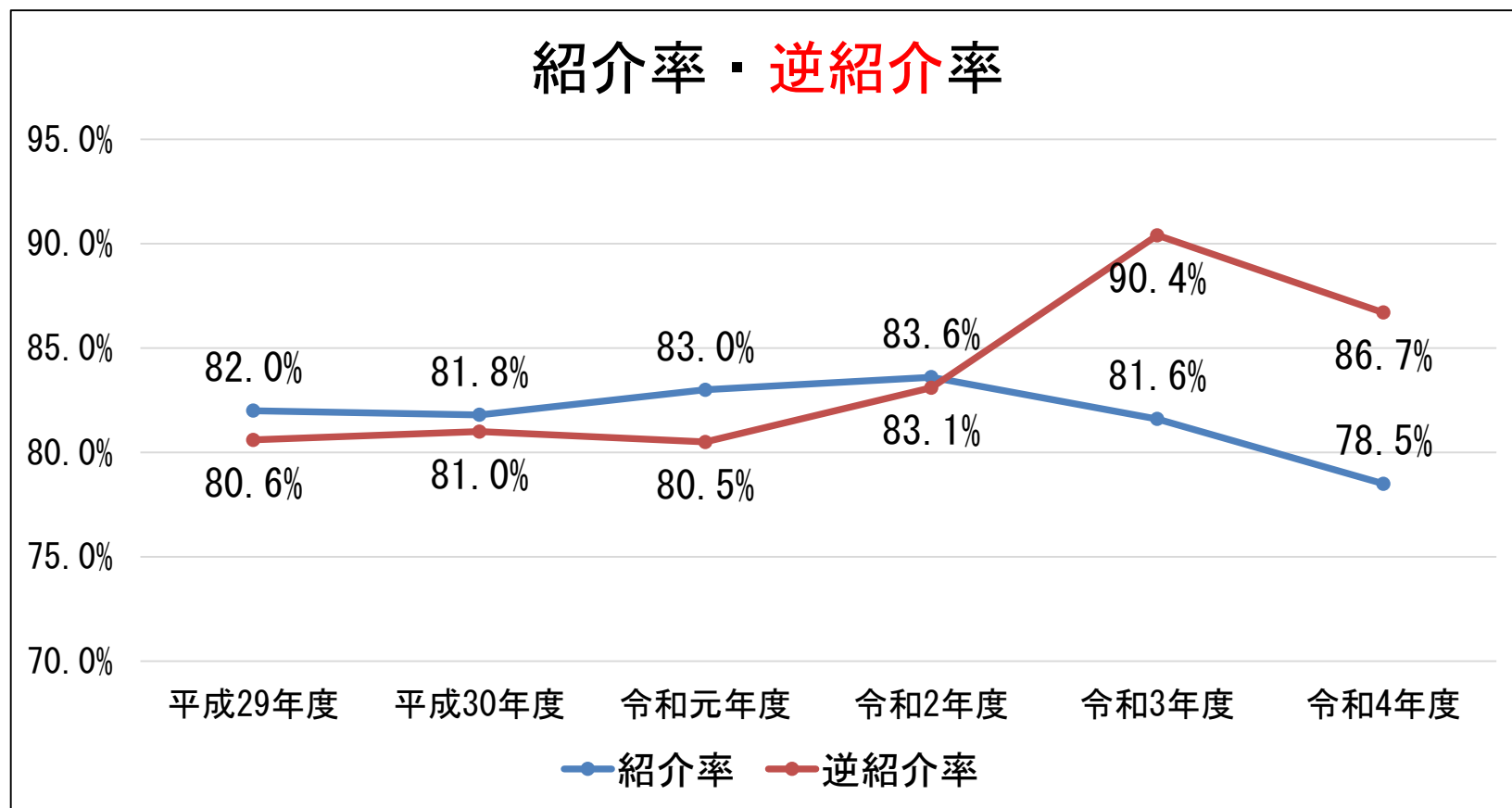
1 現状と課題

◆ 診療実績



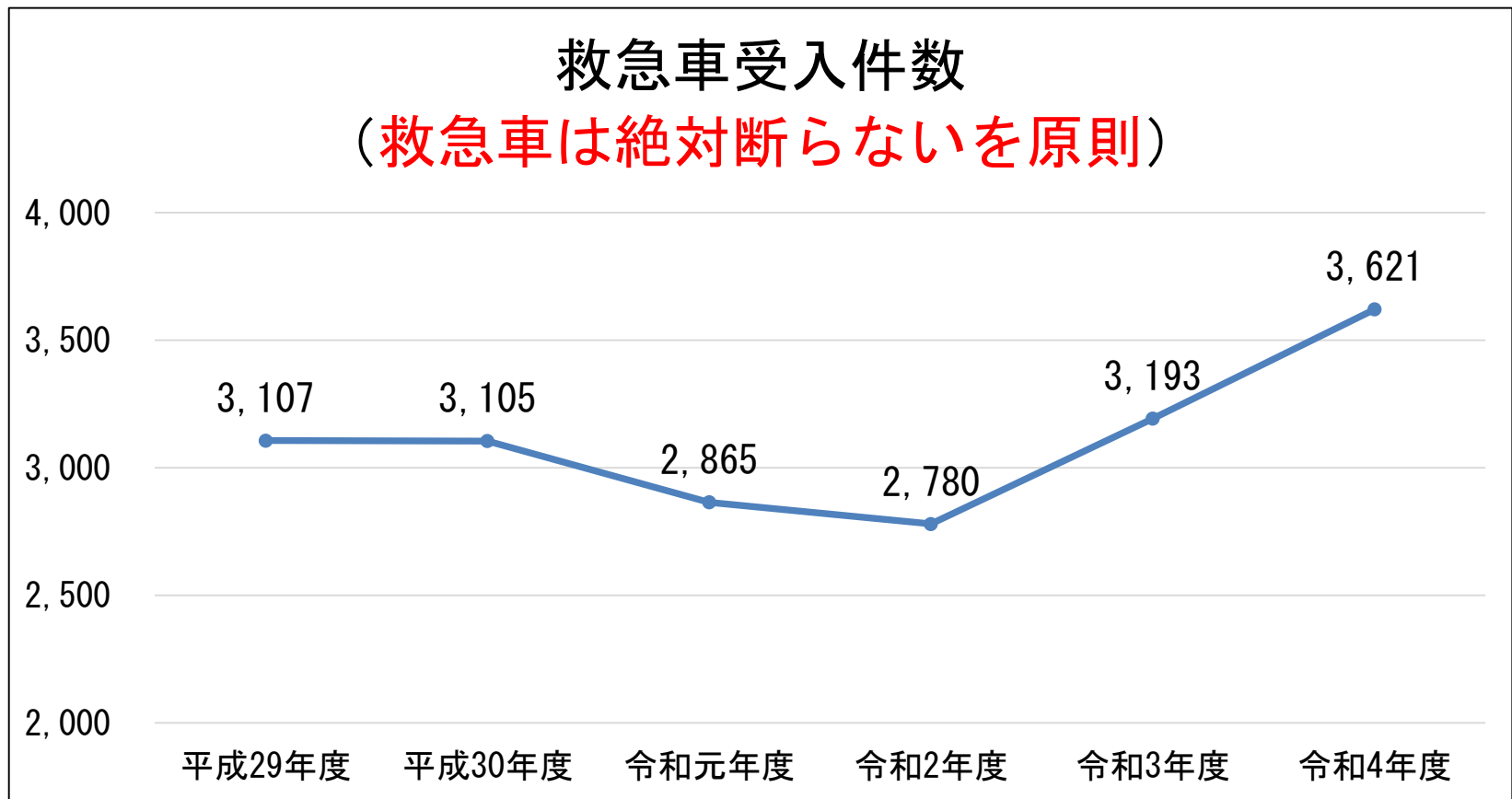
1 現状と課題

◆ 診療実績



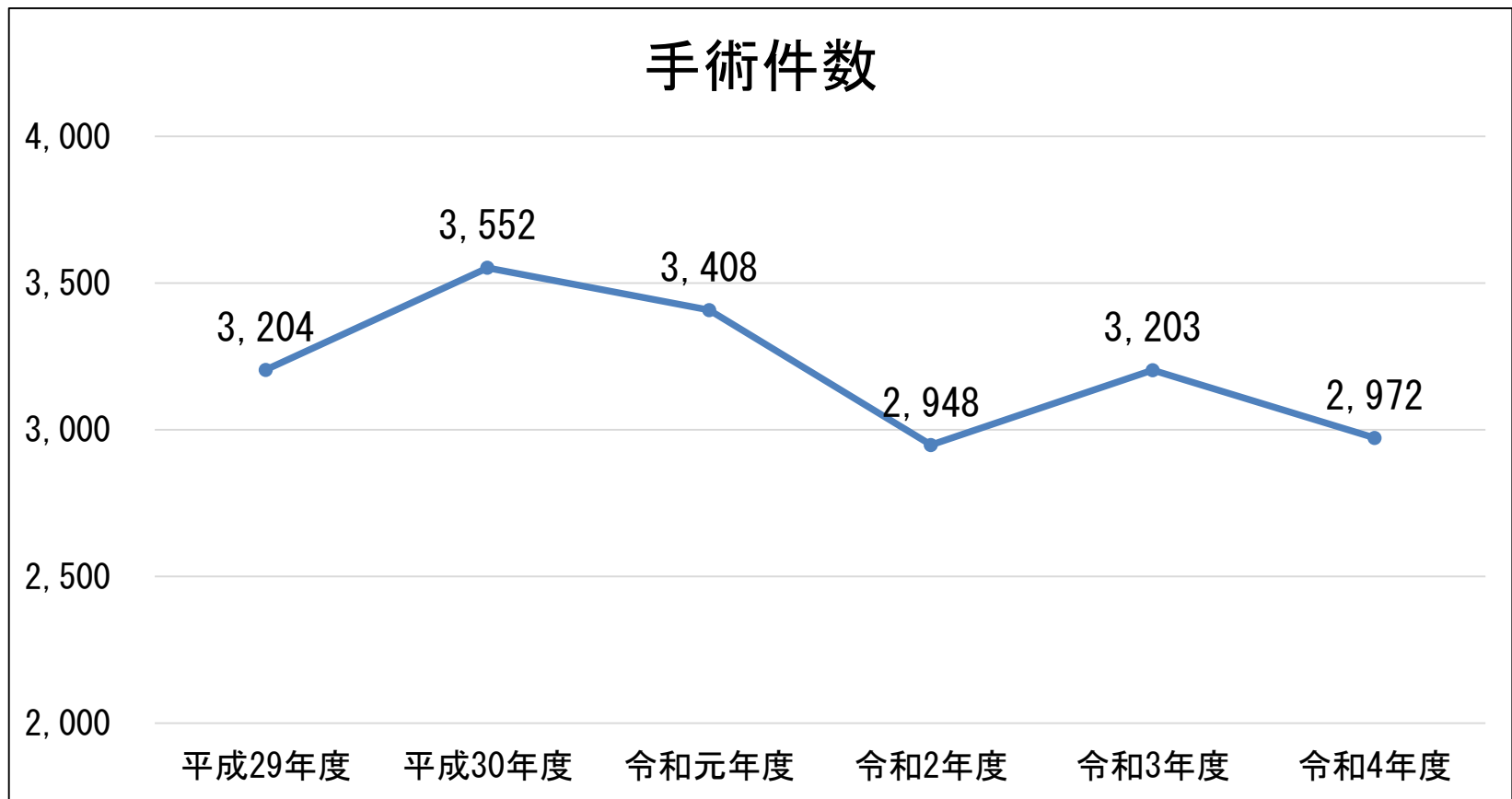
1 現状と課題

◆ 診療実績



1 現状と課題

◆ 診療実績



1 現状と課題

◆ 職員数

〔令和5年10月1日現在（常勤職員及び非常勤職員）（委託職員は82名）〕

職 種	人数	職 種	人数	職 種	人数
医師（うち研修医）	71（2）	薬剤師	19	看護師	397
保健師	10	助産師	4	准看護師	7
臨床検査技師	27	放射線技師	23	管理栄養士	8
理学療法士	12	作業療法士	6	言語聴覚士	3
歯科衛生士	1	臨床工学技士	13	視能訓練士	2
事務職員	68	技能職員	19	社会福祉士	7
療養介助員	64	医師事務作業補助員	13	合 計	774

1 現状と課題

◆ 特徴

- ① 高度急性期・急性期医療を中心に、**県南における二次救急医療**を担っている。
- ② がんセンターは、県指定がん診療連携拠点病院として、熊本県南で唯一の**ダビンチ・ロボット手術**を始めとして（昨年度は**総数86例**）、先進的ながん診断の総合戦略を駆使し、**高度ながん治療**を行っている。
- ③ **県南で唯一の腎センター、糖尿病センター、血液内科**において専門的治療を行っている。
- ④ **脳卒中センター**では、県南における**脳外科手術の拠点病院**を担っている。また、脳梗塞と脳動脈瘤に対する**県南で唯一の脳血栓回収治療と脳動脈コイル塞栓治療などの血管内治療**を行っており、勿論t-PAなどの内科的治療も充実している。
- ⑤ 心臓病センターでは、最新の診断機器を駆使し、**循環器内科と心臓血管外科でハートチーム**として質の高い医療を提供している。
- ⑥ 医療だけでなく公の**堅牢な病院建設**を始めとして**八代のまちづくり**を牽引することで地方創生にも貢献している。

1 現状と課題

◆ 政策医療

① 5疾病

- がん : 熊本県指定がん診療連携拠点病院
- 脳卒中 : 熊本県脳卒中急性期拠点病院
- 急性心筋梗塞 : 熊本県急性心筋梗塞急性期拠点病院
- 糖尿病 : 熊本県糖尿病認定教育施設

② 6事業

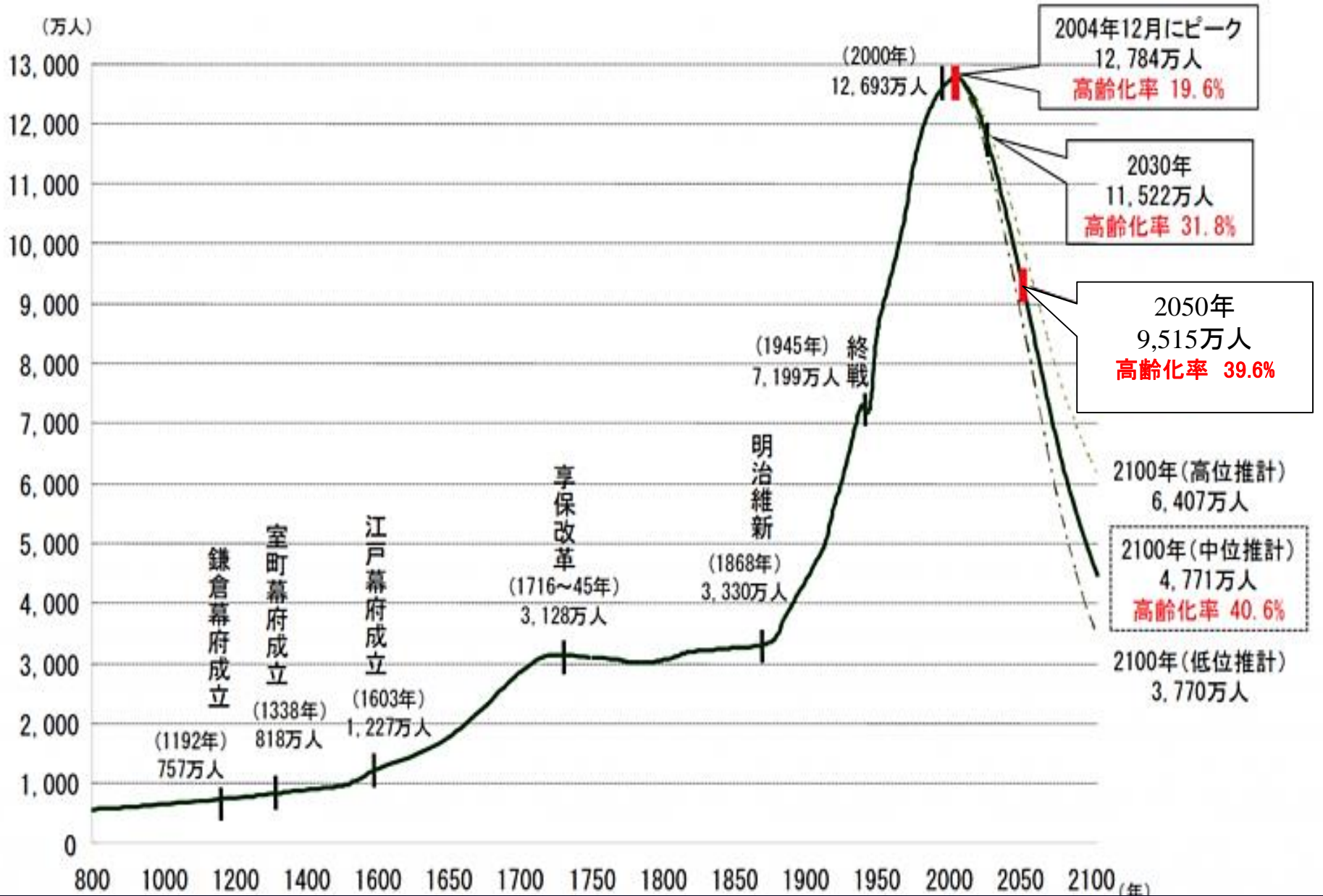
- 救急医療 : 二次救急医療
- 災害医療 : 災害拠点病院との連携、災害時の医療体制の提供
- へき地医療 : 医師の少ない地域の医療機関への医師派遣、附属クリニックの運営
- 新興感染症発生・まん延時医療 : 専用病床の確保、非常時の医療体制の提供
- 周産期医療 : 産科の再開

1 現状と課題

◆ 他機関との連携

- ① **地域医療支援病院**として自治体・保健所・医師会と連携、また、特に八代地域の医師会の先生方をお招きして**病診連携会**を年1回開催し、地域の医療機関との連携強化を図っている。
- ② **先月から産科を再開**しており、熊本大学病院との密な連携による産科医療の提供を図っていく。
- ③ **くまもとメディカルネットワーク**を活用し、地域の医療機関や介護施設、薬局等と情報共有を推進している。

日本の人口は激減 ➡ 八代地域は人口増・脱少子化



現本館改修工事に伴って「産科病棟」を突貫工事



産科病棟内部



産科病室（安心して気持ちよく出産）



1 現状と課題

◆ 課題

- ① 高度急性期・急性期・救急・周産期医療提供のため、更なる**施設・設備の充実**を図ること。
- ② JCHO機構内において**総合診療重点病院**となっており、総合医の育成及び医師をはじめとする看護師等の**人材確保と人材育成**を推進すること。
- ③ 地域医療支援病院として、地域医療推進のため、**紹介患者・救急患者の受入れ、逆紹介**に積極的に力を入れ、JCHO医療政策でもある地域医療ならびに**地域包括ケアシステムの構築**を図ること。

2 今後の方針

◆ 地域において今後担うべき役割

- ① 八代医療圏における患者の治療が八代医療圏内で完結するように、当院は公的高度急性期病院としての役割を果たすように努める。
- ② 安定した良好な病院経営のもと、その高度急性期医療や救急医療を支えるさらなる施設・設備の整備ならびに医師・看護師・コメディカル等の優秀な医療スタッフの確保と育成を行う。
- ③ 産科を再開することに伴い、地域の方が安心して子どもを産める施設を目指し、熊本大学病院と連携しながら、将来的には県南地域におけるハイリクス妊娠の受け入れができるよう診療体制を構築し、県南の周産期医療の拠点施設を担う。

2 今後の方針

◆ 地域において今後担うべき役割

- ④ JCHO医療政策の使命である**総合医育成の拠点病院**として、研修医、看護師ならびに医療技師の**認定・専門資格取得**も奨励・推進する。
- ⑤ 在宅医療・介護に関する当院主催の研修会等の開催により、**地域の医療・介護の人材育成**に寄与し地域医療の発展に貢献する。
- ⑥ 住み慣れた地域で安心した生活を送れるよう、**地域包括ケアを推進**し、全ての世代で支え・支えられるネットワークを形成し、特に**まちづくりで地方創生**に更に貢献する。

2 今後の方針

◆ 地域医療支援病院としての新たな責務について

① 医師の少ない地域の支援

- 医師の派遣にて診療支援を行っている。

派遣先	診療科	頻度
八代市立椎原診療所	内科領域	1回/週
水俣市立総合医療センター	病理診断科	2～3回/月
天草中央総合病院	麻酔科	連続した3日/月
人吉医療センター	産婦人科	1回/週

- 附属クリニックの運営により、地域医療の支援を行っている。

2 今後の方針

◆ 地域医療支援病院としての新たな責務について

② 必要な医療に重点化した医療の提供

- **高度急性期医療**の提供・・・高度かつ質の高い高度医療を提供している。
- **がん医療**の提供・・・熊本県がん診療連携拠点病院として地域の医療機関と連携している。
- **救急医療**の提供・・・二次救急医療機関として、24時間365日対応可能な体制を整えている。
- **周産期医療**の提供・・・先月から産科を再開した。今後は、熊本大学との連携により、県南地域におけるハイリスク妊娠の受け入れができるよう診療体制を構築し、県南地区での周産期医療の拠点に向かう。

2 今後の方針

◆ 地域医療支援病院としての新たな責務について

③ 感染症医療の提供

- 第2種感染症指定医療機関として、新型コロナウイルス感染症については、12階病棟をコロナ専用病棟として確保し、一般患者とは隔絶された入院導線ならびに職員の教育の上、医師の診療を行った。その結果、八代医療圏のみならず他の管轄地域からの患者の治療もスムーズに行えた。
- 感染委員会を定期的を開催し、問題点と対策を検討し、最新の医療の提供を行っている。
- 今後の新規感染症等に対しても、感染拡大時においては専用の病床を確保する他、新しく竣工した北館に非常時の医療体制の提供スペースと個室を準備している。
- 令和4年11月25日に、八代保健所・自治体・連携医療機関との新興感染対策訓練を実施したが、今後も感染症発生時等の各機関との連携及び職員の対応力向上等、更なる感染症対策の強化を目的として継続して実施していく。

2 今後の方針

◆ 地域医療支援病院としての新たな責務について

④ 災害医療の提供

- **熊本大地震**による救急外来を受診した患者は141名（重症3名、中・軽症138名）、軽症のエコノミー症候群3名であった。倒壊の恐れのある病院からの入院患者に関しては、熊本市から8名、益城町近隣から8名、八代市から16名の合計32名を受け入れた。また、透析については、熊本市ならびに近郊から延べ87名の透析患者（うち夜間透析延べ57名）を受け入れた。
- 最新の耐震構造の施設・設備となっており、熊本大地震の際は市民の要望もあり直ぐさま外来部門すべてを**避難所**としても提供した。
- 救急車のほか災害時に**夜間も使用できるヘリポート**も整備している。
- **非常用発電**のほか3日間は応援物資なしに対応できる**水・食料品・医薬品**を院内に備蓄している。
- 令和5年1月19日に災害対策本部の設置やトリアージ等、災害時の被災者の受け入れを想定した**訓練を実施**したが、今後も**十分な対応ができる**と判定された。

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【①4機能ごとの病床のあり方】

単位：床

病床機能	2022年 (令和4年)	2025年 (令和7年)	備考
高度急性期	57	57	
急性期	307	307	
回復期	56	56	
慢性期			
その他			
合 計	420	420	

3 具体的な計画

(1) 今後提供する医療機能に関する事項

【②診療科の見直し】

	現時点 (令和5年10月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、腫瘍内科、感染症内科、アレルギー疾患内科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、胃腸内科、内視鏡内科、脳神経内科、腎臓内科、人工透析内科、糖尿病内科、内分泌内科、代謝内科、脂質代謝内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、肛門外科、腫瘍外科、肝臓外科、膵臓外科、胆のう外科、食道外科、胃外科、大腸外科、内視鏡外科、疼痛緩和外科、心臓血管外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、放射線科、放射線治療科、病理診断科、アレルギー科、麻酔科	内科、腫瘍内科、感染症内科、アレルギー疾患内科、血液内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、胃腸内科、内視鏡内科、脳神経内科、腎臓内科、人工透析内科、糖尿病内科、内分泌内科、代謝内科、脂質代謝内科、外科、呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、肛門外科、腫瘍外科、肝臓外科、膵臓外科、胆のう外科、食道外科、胃外科、大腸外科、内視鏡外科、疼痛緩和外科、心臓血管外科、整形外科、リハビリテーション科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、放射線科、放射線治療科、病理診断科、アレルギー科、麻酔科	
新設	産科再開	小児科再開	
廃止			
変更・統合	婦人科⇒ 産科・婦人科へ (令和5年10月)		県南の周産期医療の拠点病院に向かって

3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(令和5年9月時点)	2025年
①病床稼働率	87.9%	95.0%
②紹介率	83.2%	90.0%
③逆紹介率	94.7%	95.0%

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

① 病床稼働率の向上

- 入退院支援センターの新設による**入退院支援の強化**
- 医師・病棟看護師長・MSW・医事課病棟担当による効率的な病床管理
- 救急診療の継続（目標：**救急車応需率100%**）

② 紹介率・逆紹介率

- 地域医療支援病院として、医師会や近隣医療機関・施設等との密な連携
- 地域医療連携室による入退院支援で**逆紹介の向上**
- くまもとメディカルネットワークの活用

3 具体的な計画

(3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

【取組みと課題】

③ 急性期病院としての役割

- **増改築による施設・設備強化**で更なる高度医療の提供
(手術室増室・拡張、内視鏡センター・腎センター・
外来部門の拡充等)

④ 医師の働き方改革

- タスクシフト／シェアの推進
- 医師事務作業補助者による医師の事務作業負担軽減
- コメディカルによるタスクシフト
- 特定行為看護師の養成

さらなる医療の充実のため、本年2月「北館」竣工し「本館」と一体となった堅牢な美しい建物となりました



公的病院を核とするストック型まちづくりにも貢献し 人口増加・脱少子化を推進

